

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2019 年 5 月～2020 年 4 月

歴史地震研究会幹事会

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2019 年 5 月～2020 年 4 月)と今後の予定

2019 年

- 6 月 7 日(金) 2018 年度第 5 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 8 月 8 日(木) 2019 年度第 1 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9 月 21 日(土)～23 日(月・祝) 第 36 回歴史地震研究会(徳島県徳島市 徳島大学地域連携プラザ)
 - 21 日 研究会・公開講演会
 - 22 日 研究会・総会・懇親会
 - 23 日 研究会・巡検
- 10 月 18 日(木) 2019 年度第 2 回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2020 年

- 1 月 17 日(金) 2019 年度第 3 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 4 月 24 日(金) 2019 年度第 4 回幹事会(Web 会議)
- 6 月 4 日(木) 2019 年度第 5 回幹事会(Web 会議)
- 8 月 4 日(火) 2019 年度第 6 回幹事会(Web 会議)
- 9 月 26 日(土)～29 日(火) 第 37 回歴史地震研究会(三重県伊賀市 ハイトピア伊賀)=予定

2. 第 36 回歴史地震研究会 総会議事録

日時:2019 年 9 月 22 日(日) 10:45～11:45

於:徳島大学地域連携プラザ地域連携大ホール

■定足数確認

歴史地震研究会会則第 18 条により、総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要すると定められている。現在の会員数 266 名、本会場内にいる会員数は 58 名、委任状提出 4 名で定足数を満たし、総会は成立する。(大邑潤三総務委員長)

■松浦律子会長挨拶

■議長選出

大邑潤三総務委員長より佐竹健治会員を議長に推薦。佐竹健治会員が議長に選出され、ここからは議長が進行を務める。

■佐竹議長挨拶

第一号議案 2018 年度事業報告および決算報告

1. 2018 年度事業報告

(1)研究成果発表会および講演会

- ①第 35 回歴史地震研究会(大分大会)の開催について(松崎伸一前行事委員)
総会資料第一号議案 1.(1)①により説明。
- ②他の学協会が主催する行事の共催・後援等について(大邑潤三総務委員長)
総会資料第一号議案 1.(1)②により説明。
- ③第 36 回歴史地震研究会(徳島大会)の開催準備について(馬場俊孝行事委員長)
総会資料第一号議案 1.(1)③により説明。

(2)会誌の刊行について(行谷佑一編集出版委員長)

『歴史地震』第 34 号を 2018 年 7 月末に発行したことについて総会資料第一号議案 1.(2)により説明。

(3)広報活動について(加納広報委員長)

総会資料第一号議案 1.(3)により以下の事項について説明した。

- ①新たに Flash を用いないホームページを立ち上げ、33 号の PDF、議事録、大会案内、その他行事のお知らせ等を掲載した
- ②研究会に関する外部への窓口として、問い合わせフォームを作成
- ③大会への発表募集・会場等の案内や公開シンポジウムについて各種団体へ告知

(4)歴史地震研究に関する業績の表彰について(大邑潤三総務委員長)

石橋克彦会員に功績賞を授与することを幹事会で決定し 2019 年 9 月 22 日の総会で授与したことを総会資料第一号議案 1.(4)により説明。

(5)その他(大邑潤三総務委員長)

研究会の各事業を行うために付随する活動として、大会中の総会 1 回と幹事会 5 回を行ったことを総会資料第一号議案 1.(5)により説明。

2. 2018 年度決算報告

(1)2018 年度決算報告について(諸井孝文財政委員長)

総会資料第一号議案 2 および説明資料の 2018 年度会計監査報告書および会員の現況及び会費受取状況により、2018 年度の収入と支出、大分大会の収入と支出を報告。

歴史地震研究会 2018年度 決算報告

項目		予算額	決算額	増減	内訳
収入	2018年度会費	1,240,000	856,000	▲ 384,000	4000円×214名
	2017年度以前会費	0	12,000	12,000	4000円×3名
	2019年度会費	0	76,000	76,000	4000円×19名
	2020年度会費	0	4,000	4,000	4000円×1名
	会誌口絵代	46,000	46,000	0	23000円×2ページ
	会誌・講演要旨バックナンバー代	0	28,850	28,850	会誌16部, 講演要旨4部
	大分大会剰余金	0	160,619	160,619	
	前年度繰越	1,877,136	1,877,136	0	
合計		3,163,136	3,060,605	▲ 102,531	

支出	2018年度大分大会関係費	30,000	0	▲ 30,000	剰余金のみ
	2019年度大会費	100,000	0	▲ 100,000	
	2020年度大会費	30,000	0	▲ 30,000	
	歴史地震34号印刷・発送代	675,000	604,776	▲ 70,224	410部, 振込料648円込
	同編集費	25,000	0	▲ 25,000	
	HP管理費	60,000	21,267	▲ 38,733	振込料216円込
	会議費	300,000	79,120	▲ 220,880	
	功績賞関連費	100,000	105,596	5,596	振込料216円込
	歴史地震アーカイブ費	50,000	0	▲ 50,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	30,000	21,347	▲ 8,653	
	合計	1,400,000	832,106	▲ 567,894	

次年度繰越金	1,763,136	2,228,499	465,363	
--------	-----------	-----------	---------	--

2018年大分大会収支報告

項目		金額	内訳
収入	参加費(会員)	142,000	2000円×71名
	同上(非会員)	72,000	4000円×16名+2000円×4名
	懇親会会費(一般)	275,000	5000円×55名
	同上(学生)	10,000	2500円×4名
	巡検参加費	195,000	5000円×39名
合計		694,000	

支出	大会会場費 ^{注1)}	27,630	設備利用料
	予稿集印刷費	70,416	120部, 消費税5184円・振込手数料432円込
	懇親会費	228,000	4000円×57名, 消費税込
	巡検代金	192,397	交通費・昼食代・保険料・拝観料・巡検講師謝金
	文具代	9,031	レールファイル・VGAケーブル他
	雑費	5,907	宅配便代
	合計	533,381	

収支差額	160,619	剰余金
------	---------	-----

注1) 大会会場費はこの他に2016年度分(80208円)と2017年度分(16812円)の合計97020円が支出済

(2)会計監査報告(中村監査役、植竹監査役)

2018 年度収支決算報告の監査を行い、予算の執行、帳簿、証票の整理等、正常かつ適正に処理されていることを確認した。

〈第一号議案について質疑〉

Q 会員特典停止とは除名ということか？

A 会則が曖昧なので会則の改定を今回予定している。1年の滞納で除名は厳しいので、特典を払うまで停止という扱いになっている。停止中の人には会誌も送っていない。

Q 会員数には停止中の人も入っているのか

A ここで報告した会員数には、停止中の人はいっていない。特典を持った人を会員とみなしている

(議長)第一号議案 2018 年度事業計画および決算報告を承認してよい。

第一号議案 2018 年度事業計画および決算報告を拍手で承認。

第二号議案 会長選出

歴史地震研究会会則第 16 条第 1, 2 項に基づき、幹事会の推薦を得て、現会長である松浦律子氏から歴史地震研究会会長に立候補の届け出があった。以上、報告する。(大邑潤三総務委員長)

(議長)立候補した松浦律子氏を次期会長として選出してよい。

拍手で承認。松浦律子氏を会長に選出。

第三号議案 監査役選出

監査役の定数は 2 名。歴史地震研究会会則第 16 条第 4 項に基づき、幹事会として現監査役である中村操氏および植竹富一氏を次期の監査役に推薦するとの届け出があった。以上、報告する。(大邑潤三総務委員長)

(議長)推薦があった中村操氏と植竹富一氏を監査役として選出してよい。

拍手で承認。中村操氏と植竹富一氏を監査役に選出。

■新会長挨拶と役員指名

次期の松浦律子会長より挨拶。2019 年度の役員は、副会長に堀川晴央氏(留任)、幹事は総務委員長に大邑潤三氏(留任)、財政委員長に諸井孝文氏(留任)、広報委員長に加納靖之氏(留任)、行事委員長に盆野行輝氏(新任)、編集出版委員長に行谷佑一氏(留任)を指名する。各委員会の運営のために必要数の委員を追って指名する。

■各新幹事・監査役より挨拶。

四号議案 会則の改正

会則には会費の長期滞納者への対応などが明記されておらず、こうした会員も会員名簿から削除できない状態が続いていた。また退会のあり方や昨今の会員状況もかんがみ退会制度の見直しや、休会制度を新たに設けたい旨、総会資料第四号議案により説明。(大邑潤三総務委員長)

〈第四号議案について質疑〉

Q 休会制度のメリットは

A 名簿に名前が残る。休会中の会員という扱いであり会員と名乗ることができる

Q 会費滞納で除名になったとき復会したい場合はどうするのか

A 滞納分を全納し幹事会で認められれば復会できる

- ・文章表現の統一が必要
- ・11 条の「第 9 条に従わず」は不要ではないか
- ・連絡のつかない除名者に会費の全納は不可能ではないか
- ・休会や復会届にも所定の書式は必要ないのか
- ・休会届に復会時期の見通しも明記すべきではないか
- ・休会したままフェードアウトする例も発生するのではないかと
→幹事会で再度検討の上改定したい

(議長)第四号議案 会則の改正については出席者の 3 分の 2 以上の承認が必要である。

細かい修正点などは幹事会に一任するとして、会則改正の趣旨を承認してよい。

第四号議案 会則の改正を拍手によって 3 分の 2 以上とみなし承認。

第五議案 2019 年度事業計画および予算案

1. 2019 年度事業計画案

(1)研究成果発表会および講演会

- ①現在 2019 年第 36 回徳島大会を開催中である。(大邑潤三総務委員長)

- ②2020 年第 37 回大会を伊賀上野市で開催するため準備を行う。(盆野行輝新行事委員長)
 ③2021 年の大会候補地について候補地の選定、日程調整を行う。(大邑潤三総務委員長)

(2)会誌の刊行(行谷祐一編集出版委員長)

会誌『歴史地震』第 35 号を 2020 年 7 月末頃に発行予定であり、論文を募集する旨と体裁や締め切りについて、総会資料第五号議案 1.(2)により説明

(3)広報活動(加納靖之広報委員長)

ホームページと会員メーリングリストおよび musha の運営管理を引き続き行う旨、総会資料第五号議案 1.(3)により説明。

(4)歴史地震研究に関する業績の表彰(大邑潤三総務委員長)

歴史地震研究会功績賞の授賞対象者の選考を検討する旨、総会資料第五号議案 1.(4)により説明。

(5)その他(大邑潤三総務委員長)

会の運営のため総会および年間 5 回程度の幹事会を開催する旨、総会資料第五号議案 1.(5)により説明。

2. 2019 年度予算案(諸井孝文財政委員長)

総会資料第五号議案2歴史地震研究会 2019 年度予算案により 2019 年度予算について説明。

歴史地震研究会 2019年度 予算案

項目		金額	内訳
収入	2019年度会費	988,000	4000円×247名(266名-19名)
	前年度繰越	2,228,499	
	合計	3,216,499	
支出	2019年度徳島大会関係費	50,000	
	次年度以降大会準備費	50,000	
	歴史地震35号印刷・発送代	656,000	1600円×410部
	同編集費	25,000	査読料、編集補助謝金等
	HP管理費	20,000	
	会議費	200,000	
	功績賞関連費	100,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	30,000	
	合計	1,131,000	
次年度繰越金		2,085,499	

〈第五号議案について質疑〉

なし

(議長)第五号議案 2019 年度事業計画および予算案 を承認してよいか。

第五号議案 2019 年度事業計画および予算案 を拍手で承認。

■議長解任

■閉会

3. 幹事会議事録

2018 年度 第 5 回幹事会議事録

場所:地震予知総合研究振興会小会議室

日時:2019 年 6 月 7 日(金) 17:00~19:30

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 馬場(行事・skype), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 大邑(総務)書記

1. 入退会者の承認及び会費受取状況(財政)

【資料 1】入退会申請及び会費受取状況 【資料 2】2018 年度会費の未納会員(2019 年 6 月 6 日現在)

・入退会者

- ✓入会申請 3 名：佐々木氏、岡村氏、石瀬氏 退会申請 1 名：高山氏 ほか住所変更 3 名
- ✓会員数 317 名（年度末退会予定 5 名） 実質 312 名 →入会者を承認

・会費状況

- ✓220 名納入済 97 名未納
- ✓督促状はメールで送付
- ✓今回は今年度分のみ督促、以前の未納は人により違うので保留
- ✓「6 月末までに入金がない場合は会誌 34 号の送付が通常より遅れる」とする
- ✓来年の督促は時期的に 1 ヶ月早いとよい
- ✓今年度以前の未納分は追ってリスト整理する
- 未納者リストはメールアドレスなど調整のうえ督促状を送付

2. 研究会会則の改正について

【資料 3】各学会の会費支払方法、滞納対応、減免・休会制度について

・会員資格停止や退会、休会の制度化について

- ✓各学会の制度を調べると滞納期間などで会員資格停止などを明記する例が多い
- ✓会員資格停止などの制度を会則に明記するほうが良い
- ✓会則に明記すれば自動的に処理しやすい
- ✓2 年間会費滞納により会員資格停止（退会？）で良い
- ✓連絡の取れない場合の対応も必要
- ✓滞納分がある場合に退会時に全納で良いのでは
- ✓休会については制度化しない
- ✓1 年滞納で会誌送付停止、2 年で資格停止（退会？）にすれば良い
- ✓「次の場合は退会とする」といった条文も作成
- 会則を改定する方向で徳島大会の総会で諮る。改定案は次回幹事会までに総務が作成

3. 2019 年徳島大会の準備および申し込み状況について（行事）

【資料 4】2019 年歴史地震研究会（徳島大会）準備状況

【資料 5】第 36 回歴史地震研究会（徳島大会）プログラム 【資料 6】（公開講演会チラシ）

- ✓初日の公開講演会について、徳島大学が主催で入れば会場費不要とのことであったが、徳島大単独主催でないとはならないとことが判明。研究会単独主催になると会場費が発生するが予算に計上済なので問題はない
- ✓後援手続きについて、環境防災センターは完了、県立文書館は手続き中で近日中に完了
- ✓会場は仮予約済（¥133,660）→申請書・契約書等を作成し本予約手続き開始（6/28）
- ✓事務局準備のノート PC について
- 今回は発表者それぞれ PC 持参の予定、Mac 使用予定者 6 名は互いに調整してもらう
- 念のため大会事務局（徳大）でも用意
- ✓申し込み状況：57 件（口頭 39 件、ポスター 18 件）、懇親会 14 件、巡検 12 件
- ✓プログラム案【資料 5】
- ✓ポスター用パネル 30 枚（独立して立つもの）を確保（A0 縦）
- ✓ポスターは 2 日目朝 3 日目終了まで掲載可能
- ✓座長はこれから依頼 →プログラム案を了承
- ✓公開講演会のチラシを作成、タイトルの（仮）は取れた。後援が決定したら印刷し広報。会の HP にも掲載
- ✓出席者数を控えておき記録に残すと良い →受付で名前を記入する方法をとることで決定
- ✓助成金は申請済
- ✓領収書は財政が作成
- ✓受付（お金の管理）は財政のほか 1～2 名（アルバイト扱い等については確認）
- ✓大会セットを確認
- ✓会場費は 8 月以降に支払い（6/10 財政発信メールで確認）

4. 2020 年伊賀大会について（総務）

→伊賀市から後援をもらうにあたって会長が市を訪問することに決定。時期は後日調整。

5. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

【資料 4】『歴史地震』の編集について 【資料 5】別紙 1 御見積書 【資料 6】別紙 2（会員向挨拶状）

【資料 7】別紙 3（研究会だより案） 【資料 8】別紙 4（図書館向挨拶状）

【資料 9】「研究会だより」32 号～34 号（予定）内容比較

・編集状況ほかについて

- ✓34 号の分量は例年と同程度、口絵の希望者はいなかった

- ✓ 6 月 20 日頃入稿予定→編集委員会内でゲラ校正 7 月 8 日→7 月中旬に発行送付予定
→会費滞納者への対応もあるので発送は遅らせてもよいが 7 月末までには届けたい
- ✓ 概算見積：税込 680,196 円※値引き適用【資料 5】紙が値上がりしている
- ✓ ページ数、部数が決まり最終的な見積は後日連絡
- ✓ 担当者が休暇中なので見積書は見直しが入る予定（消費税など）
- ✓ 挨拶状に記す総会資料の掲載時期について 8 月末で確認
- ✓ 挨拶状の問い合わせメールアドレスについて確認
- ✓ 挨拶状の会計年度について 2 行目「年度初めの 9 月末」→「年度初めの 8 月末」に変更
- ✓ 図書館への挨拶状は堀川副会長（リスト管理者）を連絡先にすることを確認
- ✓ 管理が別となっている会員送付先リストと図書館等送付先リストの送付、払込用紙については後日調整を行う
→両リストは編集が取りまとめた上で前田印刷に送付（6/20 編集発信メール）。ただし会費督促中なので会員送付先リストは振込期限の 6 月末以降に確定する。確定以降の 7 月上旬にリストを送付し幹事会メール審議により発行部を決定（6/21 編集発信メール）
- ✓ 34 号の印刷・製本・配送代は 7 月末までに支払い（6/10 財政発信メールで確認）
- ・ 前回議事録の「編集出版」部分の修正と 16 号以前原稿掲載の取扱いについて
 - ✓ 16 号以前の原稿について会の姿勢は問題ないか
 - ✓ 16 号以前は国会図書館で閲覧できる旨を HP に掲載するのが一番良い
→国会図書館に関する部分の議事録は修正しない方向で決定し、議事録の不要部分は削除
- ・ 「研究会だより」の掲載内容に関して
 - ✓ 34 号も 33 号のスリム化された「研究会だより」を引き継ぐ方針だが、大会の案内と原稿募集は掲載する
 - ✓ Web で見られるものはそちらで閲覧してもらうのが良いが、記録に残すという意味もある
→原則スリム化し、会則などの変更があった場合やページ数が少ないときに載せることに決定
→文量の多い今年度の 3・4 回分議事録は圧縮して掲載する方向で決定
→会員向けメーリングリスト入会は info_mem_hes 宛に送るよう明記

6. ホームページおよびメールアドレスについて（広報）

【資料 10】（広報資料）※前回からの作業、今後の作業、現在のメールアドレス一覧

- ・ ホームページの更新案について
 - ✓ 新 HP への移行はまだしていないが、すでに 16 号以前の原稿についての国会図書館への案内などは掲載済
 - ✓ Flash でないものに早く移行すべきなので来週移行の予定
 - ✓ 17 号は目次しかないが PDF の公開に問題はあるのか確認する
 - ✓ 当面 URL などはブックマークしている人などもあるので移行期間を設ける
 - ✓ 徳島大会の第 3 報をすぐに掲載
 - ✓ 2018 年度のホームページ管理費は 7 月末までに支払い（6/10 財政発信メールで確認）
- ・ 会のメールアドレスについて
 - ✓ 現在広報用（メーリングリスト管理用）になっている info_mem_hes を対外的な問い合わせメールアドレスにする
 - ✓ Webmaster は info_mem_hes と重複しているので統合する予定
→info_mem_hes は会員用、Webmaster は会員以外のはずなので役割を明確にし両方存続
→Webmaster を HP に載せ問い合わせ用にすべき

7. 2019 年功績賞の準備状況について（副会長・総務）

【資料 11】2019 年歴史地震研究会功績賞の準備状況について

- ✓ 文案を作成したがこれでよろしいか →承認
- ✓ 功績賞の通達は総会内でおこなうものとする（議事次第に入れる）
- ✓ 受賞者には改めて通知
- ✓ 受賞者は懇親会で挨拶してもらうことで決定
- ✓ 功績賞経費（賞状代・交通費）は来年度経費としてまとめて 8 月以降におこなう（6/10 財政発信メールでも確認）
→荏原印刷より 8 月支払いで問題ない旨確認（6/17）
- ✓ 見積り・発注は堀川副会長が担当

8. その他

- ・ 2021 年大会の開催地について
 - 【資料】2021 年大会について
 - ✓ 北大西村先生がお引き受けくださる
 - ✓ 北海道胆振東部地震から 3 周年
 - ✓ 開催場所は北海道苫小牧市周辺と松前町周辺の 2 案あり →苫小牧市周辺が良い
 - ✓ 講演会の演題についても案あり

- ✓ 巡検場所も両地点それぞれに予定候補があるが、歴史的 or 地質的どちらかに偏る
- ✓ 開催日を第 1 週目（地震から 3 周年として）にもってくることは可能か
→第 1 週だと地質学会とかぶるが、西村先生の都合次第
→会としては第 1 週で問題ない
- ✓ 北海道大会開催プランを承認するか、承認するのであれば会として正式に依頼できるか
→書面が必要であれば出すが、そうでなければ特に正式なものはない
- ✓ 大会準備のための経費（交通費など）は研究会から出せる（21 年大会準備金として総会に予算を計上すれば 9 月から使える）
- ✓ 2022 年は高槻大会か？

・会費振込み方法の省力化について

- ✓ 現状では自動引き落としなどへの変更は難しい（手数料など）
- ✓ ネットバンキングでも可能な旨など各方面に明記
- ✓ 郵便振替だけでなくコンビニ ATM や銀行などでも振込可能な旨も記載

・後日（6/10）財政より

2019 年 7 月末までに支払いすべき項目は以下の通り

- ◇ 2018 年大分大会の収入と支出
- ◇ 歴史地震 34 号の印刷・製本・配送代
- ◇ 大分大会での功績賞の関連費
- ◇ 2018 年度ホームページ管理費
- ◇ その他、会議費、雑費等の 2019 年 7 月末までの実費

○次回幹事会は 8 月 8 日 17 時～開催の予定

2019 年度 第 1 回幹事会議事録

場所:地震予知総合研究振興会小会議室

日時:2019 年 8 月 8 日(木) 17:00～19:30

出席者:松浦(会長),堀川(副会長),諸井(財政),馬場(行事),加納(広報),行谷(編集出版),中村(監査),植竹(監査),大邑(総務)書記

1. 入退会者の承認（財政）

【資料 1】1. 入退会者の承認（2019 年 6 月 8 日～8 月 8 日）

・入退会者

- ✓入会申請 1 名：金子氏 退会申請 7 名 登録内容の変更 2 名
- ✓会員総数の変遷について説明（2018 年 8 月 1 日～2019 年 8 月 8 日）
- ✓実質会員数 264 名（2018 年度末）となる（会費未納者などを除いた場合） →入会者を承認

2. 会費督促受取状況（財政）

【資料 2】2. 2018 年度会費督促・受取状況のまとめ

- ✓2018 年度会費 272 名納入済（7/31 時点）
- ✓2019 年度会費 102 名納入済 2020 年度会費 1 名納入済（7/31 時点）
- ✓2018 年度会費未納者 46 名は会員特典停止となる
- ✓督促により 51 人納入 督促しても払わない者 35 人
- ✓督促した結果が 7 月下旬に振り込みが集中したため追加の会誌送付が必要となり、会誌バックナンバー残部が 14 部のみとなった。
→未納者 46 人は会員特典停止扱いとし、実質会員には含めないとする。

3. 2019 年徳島大会の準備状況および申し込み状況（行事）

【資料 3】2019 年歴史地震研究会（徳島大会）準備状況

- ✓74 名申し込みアリ
- ✓予稿原稿未提出 1 名 確認中
- ✓未入会者 1 名 →早急に手続きするよう連絡
- ✓予稿集は 100 部印刷（大分大会では 120 部印刷し残部が出た）
- ✓座長と参加記執筆者を手配
- ✓領収書の用意に関しては諸井さんから室谷さんに連絡

- ✓功績賞受賞者は研究会参加費無料
- ✓台風時の対応 大学の場合大雨・暴風警報がでると休講のためそれに基づく
- ✓公開講演会は朝 10 時頃に判断し講演者に連絡する
- ✓中止になった日の発表は中止するが、学生の発表などには配慮する
- ✓巡検のバスは自然災害の場合、当日キャンセル OK、昼食も当日キャンセルでもキャンセル料なし
- ✓講師謝金については要検討
- ✓支払いは金額改定後の後払い

4. 総会資料の準備について（総務）

【資料 4】第 36 回歴史地震研究会総会資料（案）

- ✓議長を佐竹会員に依頼
- ✓行事委員長以外は留任の方向で調整、委員は委員長が決定
- ✓委嘱状を総務が用意
- ✓お盆明けには総会資料をウェブにアップ
- ✓共催後援については要確認
- ✓第 38 回の開催地については明記せず口頭で現時点での候補地を伝える
- ✓事業年度の説明図については内容要検討
- ✓実質会員数は 272 人とする
- ✓会誌の刊行の部分にモノクロや解像度について追記予定
- ✓功績賞については、「選考を検討する」とする
- 修正したものをメール審議にて修正追加し完成させる

5. 研究会会則の改正について

【資料 5】第 36 回歴史地震研究会総会資料（案） 第四議案

・第 2 章の文言について

- ✓会費滞納は除名扱い
- ✓11 条に「除名して再入会する場合は滞納分を支払うこと」を明記
- ✓休会制度を設置する
- ✓除名条項は不適切な行為があった場合に必要なので存続
- 修正したものを再度メール審議し総会資料に掲載

6. 2019 年総会の準備（総会資料案）（財政）

【資料 6】2019 年総会の準備（総会資料案）-2018 年度決算報告、同監査報告、2019 年度予算案他-

- ✓資料 6 にもとづき収入・支出につき報告・確認
- ✓資料 6 にもとづき予算案について報告・確認
- ✓大会日は別会計となっている
- 歴史地震アーカイブ費について今年度は不要
- 消費税が上がり、紙代も上がっているので印刷・発送代を上げる
- ✓監査による監査報告をうけ問題なかった。
- ✓会員の現況については会員数 264 名とする
- ✓資料 6 にもとづき大分大会収支について報告・確認
- ✓功績賞旅費については大会収支には入っていない

7. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

【資料 7】『歴史地震』の編集について

・編集状況ほかについて

- ✓資料 7 にもとづき 34 号編集結果について報告
- ✓余ったクラフト封筒については要確認
- ✓編集補助をしてもらった方に謝金を払いたいが可能か →謝金などの形で検討
- ✓総会では「冊子版ではモノクロ、ウェブ版はカラーだが 150dpi に落とす」旨強調したい
- ✓著者から寄贈する場合には著者が購入して寄贈
- ✓会員価格 1,000 円は原価割れしているので改定すべき
- ✓14 号以前の会誌については当面国会図書館に誘導する

8. ホームページの更新について（広報）

- ✓ホームページを flash にないものに更新した旨口頭で報告
- ✓今後不具合があれば修正する

9. 2019 年功績賞の準備について（副会長）

【資料 8】2019 年功績賞の準備について

- ✓ 現在、注文が済んで進んでいる状況
- ✓ 賞状等については中身を確認し、副会長が徳島に持参
- ✓ 請求書は副会長から財政へ転送

10. その他

・ 総会委任状について

- ✓ 委任状の在り方について確認
- ✓ ホームページを作成するか確認

○次回幹事会は 10 月 18 日 17 時～開催の予定

2019 年度 第 2 回幹事会議事録

場所:地震予知総合研究振興会小会議室

日時:2019 年 10 月 18 日(木) 17:00～19:30

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長・Skype), 諸井(財政), 馬場(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 大邑(総務)書記

1. 役員および委員名簿の確認（総務）

【資料 1】歴史地震研究会役員および委員名簿（2019 年 11 月 1 日就任）

- ✓ 本年度の役員・委員について確認
- ✓ 前年度からの留任が多いが行事委員長および委員は交代
- ✓ 総務委員から林会員が、財政委員から内田会員が抜けることを確認
- ✓ 再度委員などに確認して確定

2. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況（財政）

【資料 2】2. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況

- ✓ 入会申請 5 名+1 名 退会申請 1 名 登録内容の変更 3 名 →入会者を承認
- ✓ 実質会員数 271 名（10 月 18 日時点）
- ✓ 海外会員への会誌送付について議論, よい送付方法を調べる
- ✓ 2019 年度会費の受取: 202 名（75%） 未納: 69 名 未納者には督促を開始する予定
- ✓ 80 歳以上の会員の会費のあり方について検討

3. 2019 年大会のまとめ（財政・行事）

【資料 3】2019 年大会のまとめ-歴史地震研究会 2019 年徳島大会の事業報告及び収支報告-

- ✓ 参加者: 会員 82 名, 非会員 16 名, 招待 1 名
- ✓ 発表者: 口頭 39 件, ポスター 18 件
- ✓ 公開講演会講演 3 件: 会員 66 名（推定）, 非会員 62 名（記名をもとに集計）
- ✓ 懇親会参加者: 一般 65 名, 学生 2 名, 招待 3 名
- ✓ 巡検参加者: 会員 36 名, 非会員 1 名, ガイド 1 名
- ✓ 収支について報告 収入（助成金含む）: 1,002,000 円, 支出: 841,486 円 余剰: 160,511 円
- ✓ 助成金 30 万円は入金され次第幹事会に連絡

4. 2020 年大会について（新行事）

【資料 4】第 37 回歴史地震研究会伊賀大会開催案及び準備状況

- ✓ 大会名「第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）」で決定
- ✓ 開催日, 会場（ハイトピア伊賀）, 設備について確認（仮予約中）
- ✓ 多目的大研修室: 会場, 学習室: ポスター会場, ギャラリーも使用予定
- ✓ 3 日間通しで利用, 使用料などの見積もりについて報告
- ✓ 後援者の案および申請状況について報告
- ✓ 日程案（4 日間）の予定について報告
19 日午後: 公開講演会, 20 日: 発表会・懇親会, 21 日: 発表会・総会, 22 日: 巡検
- ✓ 公開講演会 14～17 時を想定
学識経験者枠: 城郭と地震の観点から中井均（滋賀県立大学・考古学）を検討

地元枠：地震・歴史地震への理解を深められる内容（文化財系・活断層系など）を予定
伊賀文化産業協会（伊賀上野城）との共催を検討

- ✓懇親会（18 時～）はヒルホテル サンピア伊賀（バス送迎あり）を想定
- ✓巡検の候補地，移動方法，昼食場所の予定について報告
- ✓地元実行委員メンバーについて報告
- ✓宿泊施設について報告，一部ホテルについては宿泊のとりまとめも検討
- ✓伊賀上野城で地震被害に関する史料の展示を計画中（ギャラリーでパネル展も予定）
- ✓会場費の支払い時期，方法，請求書，領収書について確認
- ✓後援申請などについては今後作成する予定
- ✓各種費用については次回幹事会で具体的に報告の予定
 - 宿泊のとりまとめ（検討中）方法については引き続き検討
 - 公開講演会の講師については引き続き検討
 - 後援申請時に会則と幹事名簿を添付することを確認

5. 総会の内容をふまえた会則の改定について（総務）

【資料 5】2019 年徳島大会総会での議論をふまえた会則の改定について

- ✓総会で指摘された内容および，追加で内容や文言等の修正を検討
- ✓退会届の書式を検討
 - 修正したものを再度メール審議

6. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

【資料 6】「歴史地震」の編集について

- ✓編集体制について 5 名で行う旨報告し，締切日，受付体制，原稿募集の内容などを確認
- ✓次号発行部数については新規入会者などもあり増えると予想されるが，2020 年 4 月頃に再度検討
- ✓34 号の掲載論文に訂正依頼があった旨報告され，訂正希望がある会員は次号に訂正を投稿することで対応することを確認

7. ホームページの更新ほかについて（広報）

【資料 7】（広報活動に関する報告）

- ・編集状況ほかについて
 - ✓原稿募集，総会議事録，34 号の PDF を今後 Web に掲載予定
 - ✓ホームページのデザインなどについては指摘があれば改善していく旨報告
 - ✓伊賀大会第一報は「地震ニュースレター」1 月号に載せるためには，12 月 10 日が締切
 - ✓行事委員の新しいアドレスを用意し古いものを削除

8. 年度切り替え時期の会費支払いと特典のあり方について（財政）

【資料 8】8. 年度切り替え時期の会費支払いと特典のあり方について

- ✓会費の納入と会員特典が問題となる時期について検討
- ✓5 月頃に会誌の部数決定をする必要があるため，その頃が納入期限の 1 つであることを確認
- ✓伊賀大会では受付で会費の納入状況を確認することを検討
- ✓伊賀大会で宿のとりまとめをする場合も会費納入した会員にかぎる旨確認
 - 特典のあり方については再度修正のうえ検討

○次回幹事会は 1 月頃開催の予定

2019 年度 第 3 回幹事会議事録

場所：地震予知総合研究振興会小会議室

日時：2020 年 1 月 17 日（金） 17:00～19:40

出席者：松浦（会長），堀川（副会長・Skype），諸井（財政），盆野（行事），加納（広報），行谷（編集出版），中村（監査），植竹（監査），大邑（総務）書記

1. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況（財政）

【資料 1】1. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況

- ✓入会者 2 名，退会者 1 名，登録内容の変更 1 件 →入会者を承認
- ✓実質会員数 272 名
- ✓2019 年度会費受取状況：213 名（78%） 未納者：59 名

- ✓その他に会員特典停止中の3名が2018年度会費を納入、ただし2019年度会費は全員未納

2. 会費納付期限について（財政）

【資料2】2. 会費納付期限について-2019年度会費未納者と督促状(案)-

- ✓滞納者名簿を確認。住所、連絡先変更など気づいた点などを財務へ報告。
- ✓督促状の案を確認

3. 2020年伊賀大会の準備状況について（行事）

【資料3】第37回歴史地震研究会伊賀大会 準備状況

- ✓会場および施設(机椅子、マイク、パネル)について報告、現在仮予約中
- ✓後援先について報告、相談 →伊賀市へ後援申請を3月に提出予定
- ✓公開講演会の講演者について、活断層系の候補者について後日リスト化して共有することを決定
→講演者については5月には決定したい(中井氏+地元枠?+活断層系1名)
- ✓宇佐美会員の会員向け講演を公開講演会終了後に開催することを確認
→講演内容を会誌36号「報告」に投稿してもらうことを検討
- ✓初日開始時間を開場時間の都合から暫定的に9:30とする旨報告
- ✓講演要旨集の印刷代について、地元印刷会社のほか前田印刷にも見積もりをとることを決定
→メールにて見積額を幹事で共有
- ✓懇親会会場は仮予約済。金額やメニューについては今後調整
- ✓巡検案について、前回提案したリストのうち交通不便などを理由に2ヶ所ほど変更を予定、代わりに文化施設などを検討
- ✓マイクロバスを中止しコースを再考。後日コース案を作成し相談することに決定
- ✓ホテルの予約などについて現状を説明
- ✓「後援等申請書」の案について確認、会則・役員名簿を添付することで了解

4. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

【資料4】4. 「歴史地震」の編集について

【資料5】別紙1『歴史地震』の査読結果が「却下」だった場合の編集担当の対応

- ✓35号への投稿多数。現段階で論説19、資料4、報告4、訂正2、要旨45、339ページ(予定)
- ✓現在、すべての原稿について査読者に原稿がまわっており、論説9、資料2についてはすでに著者に戻している段階。査読が返ってきていないものについては催促も予定
- ✓1月末には著者からリバイスの予定。再査読の場合も3月中旬を目処に著者修正の予定。3月末(目安)で受理に至らないものは却下か次号に回す方針
- ✓功績者受賞者より謝辞のような内容を「報告」として投稿したいと連絡があり、編集出版委員会から依頼の形で「報告」原稿として投稿をお願いすることとした
- ✓今後、功績者受賞者には「報告」の原稿の依頼を出すことを検討中(強制ではない)
- ✓「報告」の締め切りを1月中旬に設定したい旨の提案
→「報告」については11月末までに投稿の意思を連絡し、締め切りの期日については個別に連絡することで決定
- ✓却下の判断について地震学会の編集委員会の対応を参考にガイドラインを作成【資料5】。
→基本的にこのガイドラインに沿って進むが、最終的な掲載判断は編集担当にあることを明記することを確認
- ✓34号のウェブ版について現在最終確認中。済み次第広報に渡してウェブに掲載の予定
- ✓33号ウェブ版について、本来ウェブ版であればカラーが認められていたが、すべてモノクロになっている。著者のひとりからカラー版に差し替えてほしい旨要請があったが可能か →差し替える方向で決定(4月以降対応)
- ✓水フォーラムからの『歴史地震』掲載図の転載問い合わせについて
→『歴史地震』著作権は会にあるので会から連絡することを確認

5. 広報活動について（広報）

【資料6】(広報活動に関する報告)

- ✓musha メーリングリスト、研究会メーリングリストについて随時、登録、不達チェック、更新などを実施中
- ✓ホームページを更新(役員名簿、伊賀大会第1報掲載)
- ✓伊賀大会第1報掲載についてはこれから会員に通知
- ✓大会申込みフォームを試作。申し込みが本格化する5月までには作成(メール、郵便も残す)
- ✓今後、34号PDF版、バックナンバー、議事録、伊賀大会第2報を掲載
→確定していない議事録については早々に期限を設けた上で確定することを確認
- ✓関連学会などへ伊賀大会の広報をおこなう
- ✓mushaの登録名について実名以外でも可能なのか

- 規約には本名でないとは不可とはない
- 不達のメールアドレスも多いこともあり、再登録を実施し、あわせて本名を明記するとして規約も作成(改正)することで決定。規約改正は幹事会で行う。
- 前管理者にも連絡して管理について確認

6. 会則改正について(総務)

【資料7】2019年徳島大会総会での議論をふまえた会則の改定について2

【資料8】歴史地震研究会会則 案(全文) 【資料9】退会届・休会願・復会願 書式案

- ✓盆野幹事により条文の体裁、言い回し等を修正
- ✓会員に権利に関わる部分について幹事会や会長の承認を得るなど丁寧に記述
 - 改正日2020年1月17日とし改正を承認
 - 各書式に財政メールアドレスを明記
 - HPにアップ後改正された旨を会長から会員に通知

○次回幹事会は4月24日(金)開催の予定

2019年度 第4回幹事会議事録

場所:Web会議

日時:2020年4月24日(金) 17:00~20:20

出席者:松浦(会長),堀川(副会長),諸井(財政),盆野(行事),加納(広報),行谷(編集出版),中村(監査),植竹(監査),大邑(総務)書記

1. 入退会者の承認及び2019年度会費の受取状況(財政)

【資料1】1. 入退会者の承認及び2019年度会費の受取状況

- ✓入会者2名,退会者1名,休会申請者1名,会員特典復活3名,登録内容の変更2名
 - 入退会者を承認,休会申請は所定の書式でないため再度確認。
- ✓現在の会員総数279名(休会者3名含む)
- ✓2019年度会費受取状況:240名(87%),未納者:37名
- ✓2019年総会において会員特典停止の2名が2018年度会費を納入。ただし2019年度会費は未納。
- ✓休会者は現時点で3名いることを確認→今年度総会で報告

2. 2020年伊賀大会の準備状況について(行事)

【資料3】第37回歴史地震研究会伊賀大会 準備状況② 【資料4】2020年伊賀大会収支計画

【資料5】(別添)第37回歴史地震研究会(伊賀大会)にかかる開催日程の変更について(依頼)

【資料6】(別紙2)第37回歴史地震研究会(伊賀大会)のお知らせ(第3報)案

- ✓COVID-19感染拡大に伴う伊賀市主催イベント(忍者フェスタ)の延期に伴い,市より大会日程の変更について要請があった。これを受け入れ9月19日~22日の予定を26日~29日に変更した。
- ✓日程変更にかかる伊賀市長からの依頼文を確認【資料5】
- ✓日程変更に伴い3月31日に会長からメールにて会員に通知し,HPを見え消しで修正。
- ✓会場や設備に変更はないが使用日時変更を申請4/21許可(使用料は全額減免)
- ✓ポスターパネルのサイズについては後日再度確認
- ✓伊賀市,伊賀市教育委員会,三重県の後援は承認済だが,日程変更に伴い変更届が必要,伊賀文化産業協会,伊賀上野観光協会は今後申請予定(COVID-19対策により現在閉鎖中)
- ✓公開講演会の講師は3名に依頼予定(2名は内諾済)ただし,COVID-19の状況によっては出張できず辞退の可能性あり。その場合に備え伊賀市教育委員会文化財課を確保。
- ✓関西大の林会員に講演を依頼することを決定(ただし9月時点での感染状況によることを前提で)
- ✓講演会前の会長挨拶で一般向けに歴史地震研究の意義について解説する時間を設けることを確認
- ✓現時点での発表申し込み3件(感染状況で出足が悪い可能性もある)。
- ✓講演要旨集の印刷会社については再度検討することに決定
- ✓懇親会会場も日程変更して予約済。会費6千円程度を想定。伊賀市長が参加(招待)することを決定。
- ✓巡検は日程変更になった関係で閉館の見学先もあり若干変更
- ✓岩倉峡公園の見学について道幅の関係で大型バスからマイクロバスに乗り換えを検討
 - 歩いて10分程度のためマイクロバスは不要とし,徒歩で移動することに決定
- ✓第3報の案を提示→6月10日締切で余裕があるため逐次チェックと追加修正をおこなう
- ✓チラシを作成し市内施設に配架。伊賀上野城で開催の展示とあわせてプレスリリース(新聞)を予定
- ✓開催中の感染症対策(マスク着用・手指消毒・席間隔・懇談会のみ開催しない等)

- 懇親会会場のキャンセル料は約1ヶ月前であれば発生しない(開催判断の最終は8月中旬頃)
- 会場は市の施設であるため市が閉鎖する可能性もある
- 研究発表の申し込み数によって規模が変わるので人数が少ない場合も考慮(収支など)
- 最終判断はお盆前だがそれ以前にも何回か判断をする機会を設ける
- 講演申し込みは通常通り5月末締切で行うことを決定
- 消毒液を会場で準備、マスクは着用を前提とするが一応購入しておき無い人に販売
- 公開講演会の一般参加者には、当日受付で居住地と氏名を記入。筆記具などは消毒。
- 収支計画にコロナ対策費(消毒液・マスク等)を計上
- 2021年は国体があるため、今年開催できなかった場合、来年開催は難しい。
- 現時点では開催の方向で進めるが、今後の状況次第で、懇親会中止、公開講演会中止、すべて中止などを判断。

3. 『歴史地震』の編集について(編集出版)

【資料7】3.「歴史地震」の編集について 【資料8】別紙1『歴史地震』35号受理原稿

【資料9】別紙2 前田印刷見積書 【資料10】別紙3 歴史地震研究会会誌編集規定(案)

✓35号の編集状況。現段階：論説11, 資料4, 報告4, 訂正2, 要旨49, 381ページ(予定)

論説：取下げ1, 却下1, 受理判断待ち5 資料：取下げ1, 受理判断待ち1

✓報告1編について現在委員会内で対応を検討中

✓4月末に最終原稿, 5月中旬著者校正, 6月中旬印刷原稿確定, 6月26日入稿期限, 7月頭初稿出しを最終チェック, 7月末出荷(感染症の影響は不明)。

✓現段階の見積額は795,500円(ただし発行頁数は暫定値のため大幅に変わる可能性アリ)

✓発行部数は現時点で図書館分125部, 会員分および予備285部の計410部とする。ただし次回幹事会までに入会者などがあつた場合, 再検討することを確認。

✓歴史地震研究会功績賞の英訳について, 学術的な功績だけでなく会への功勞の意味も含めたものにしたい。著者校正までには決定したいので次の幹事会までに検討することを決定(なお案として「The Distinguished Contribution Award of the Society of Historical Earthquake Studies for 2019」「the ●th Distinguished Contribution Award of the Society of Historical Earthquake Studies」が提示された)

✓研究会日より原稿について総務幹事が用意することおよび, 新会則を掲載することを確認。

✓「報告」カテゴリーの却下について, 現状では「報告」について編集側が掲載不可とできるような仕組みが編集規定にないため, 規定を変更したい。

→次回幹事会で具体的な変更案(報告の受理について)を編集委員会から提案することを確認

4. 広報活動について(広報)

【資料6】(広報活動に関する報告)

✓随時 musha および研究会メーリングリストの登録・更新を実施中

✓ホームページの更新(伊賀大会の日程を修正した第2報掲載, 幹事会・総会の議事録掲載, 34号PDF版の掲載)を行った。

✓大会の申し込みフォームを作成した

✓関連学会などへ伊賀大会の広報(日程修正依頼等)をおこなった

✓JST J-GLOBALのリンク設定に関して問い合わせがあり広報から回答した

✓今後の作業として15~17号の掲載, 前回幹事会で決定された musha の整理をおこなう。

✓株式会社エディット(小学館)から書籍の校閲依頼があつた。現在具体的な内容について連絡をとりあっている状態。→具体的な事が判明次第, 再度検討することを確認

5. 2021年大会の開催地について

✓苫小牧大会を検討。開催時期について他の学会の日程との兼ね合いを調整中。

✓伊賀大会で具体的な日時・場所を会員に連絡する必要がある, 次回幹事会までに開催案を作成することを確認

6. 2020功績賞について

✓本幹事会前に開催された功績賞選考委員会にて, 本年度はCOVID-19の感染拡大に伴い大会開催が危ぶまれること, 開催された場合も受賞者を会場に招待するリスクがあることを考慮し, 2020年度は功績賞を選出しなことを決定した。→決定を承認

✓功績賞選考のあり方について, 幹事会メンバーから構成される功績賞選考委員会による選考以外に, 第三者からの推薦や公募制度があつても良いのではないかと意見が出された。

→HPに推薦なども受け付ける旨を掲載することを確認

○次回幹事会は6月4日(木)17時~開催の予定 (ZOOMもしくは状況が許せば会議室で開催)

4. 第 37 回歴史地震研究会(2019 年 9 月 26～29 日, 伊賀大会)関係

第 37 回歴史地震研究会申し込み案内

第 37 回歴史地震研究会(伊賀大会)のお知らせ(第 3 報)

第 37 回歴史地震研究会(伊賀大会)のプログラムが決定いたしました。研究会参加, 講演要旨送付, 公開講演会, 懇親会・巡検参加申し込みの締め切りは 7 月 31 日(金), 申込先・送付先は, 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

1. 場所

ハイトピア伊賀 5 階 多目的大研修室・学習室

三重県伊賀市上野丸之内 500 番地(伊賀鉄道 上野市駅 徒歩約 2 分) <http://www.haitopia.iga.jp/>

2. 日程および参加費

2020 年 9 月 26 日(土)～29 日(火)の 4 日間

26 日 13:30～16:30:公開講演会

27 日 9:30～17:15:研究会, 18:00～懇親会

28 日 9:30～17:45:研究会・総会

29 日:巡検

- ・公開講演会は無料(会員, 非会員とも), 会場は多目的大研修室 13 時開場)です。
- ・研究発表会は大会参加費として会員 2,000 円, 非会員 4,000 円(いずれも課税対象外)を徴収します。
- ・研究発表会の会場は多目的大研修室(9 時開場&受付開始)です。
- ・懇親会(会費 6,000 円程度)はヒルホテルサンピア伊賀で開催します。なお, 懇親会場まではマイクロバスによる送迎があります。
- ・巡検の参加費は 6,000 円程度の予定です(昼食・保険含)。
- ・例年, 公開講演会, 研究発表会については参加申し込みを不要としておりましたが, 今年は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から事前の参加申し込みをお願いします。参加申し込みは 7 月 31 日(金)まで。申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

3. 講演要旨について

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ(厳守), カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット(Word ファイル)を書き換える形で原稿を作成のうえ, 原則として Word ファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7 月 31 日(金)必着といたします。原稿の送付先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

※要旨の標準フォーマット <http://www.histeq.jp/doc/AbstractFormat.doc>

4. 発表について

口頭発表で使用する PC は Windows1 台, Mac1 台をこちらで準備いたします。当日は事前にファイルを集約する予定です。ご発表前の休憩時間までに USB メモリ等でご提出ください。各自でご用意いただいた PC を接続することもできます。

ポスター発表で使用するボードの貼付面のサイズは, 高さ 180 cm×幅 120 cmです。これに収まるよう作成してください。縦長ですのでご注意ください。

5. 公開講演会

表題: 三重県を取り巻く歴史地震～様々な視点から

講演:

○塚本 明 氏(三重大学人文学部 教授)

『語り伝えられた地震津波一熊野灘における宝永地震と安政地震を中心にー』

○中井 均 氏(滋賀県立大学人間文化学 教授)

『地震により崩壊した城郭石垣の修復についてー考古学的視点からー』

○林 能成 氏(関西大学社会安全学部 教授)

『歴史から学ぶ地震防災』

参加費等: 入場無料, 事前申し込み要, 先着順, 定員 100 名

6. 懇親会

日時: 9 月 27 日(日)

場所: ヒルホテル サンピア伊賀

参加費: 6,000 円

参加申し込みは 7 月 31 日(金)まで。申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください。

7. 巡検

行程:

9:00 上野市駅前出発, 16:00 近鉄伊賀神戸駅・16:30 近鉄名張駅解散

服部川供養塔, 岩倉峽公園, 長谷園(伊賀焼窯元), 昼食, 崇廣堂, 伊賀上野城, 忍者博物館, 大村神社(バス移動)

参加費:6,000 円程度(昼食・保険含)

定員:40 名

・参加申し込みは 7 月 31 日(金)まで. 申込先は 8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先をご参照ください.

・保険加入のため, 氏名・住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください.

・巡検の参加受付は, 会員及び研究発表会参加者を優先します.

8. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先

◇Web フォームの場合: <https://forms.gle/76TryWGya8vGFTLA9>

※巡検のお申込をされた方は, 保険加入のため, 氏名・住所・生年月日・電話番号(携帯可)を, 後日こちらからお伺いいたします.

◇電子メールの場合:rekishi2020@histeq.jp

第 37 回歴史地震研究会行事委員会

盆野行輝(委員長), 馬場俊孝, 室谷智子, 小松原琢, 大邑潤三

※巡検のお申込をされる方は, 保険加入のため, 氏名・住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください.

◇手紙の場合

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学 地震研究所 1-612

歴史地震研究会行事委員会 大邑潤三 宛

※巡検のお申込をされる方は, 保険加入のため, 氏名・住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください.

9. その他

現在, 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため, 様々な催し物が中止又は延期されております. 今後状況が好転しない場合, プログラムの一部又は全部(懇親会, 巡検を含む)を中止する場合がありますので, 予めご了承ください.

なお, 上記 8. までの参加お申込みの後, 状況により急遽キャンセルをご希望の場合は, 前日までキャンセルを受け付けます.

8. の電子メールによりご一報ください.

また, 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため, 以下についてご理解, ご協力をお願いいたします.

・当日は, 会場へのご入場前に検温を実施させていただきます. 体温が 37.5 度を超える場合, 参加をお断りする場合があります.

・大会中, 参加者の皆さんにはマスクの着用をお願いします. 各自でマスクをご持参ください.

・大会の情報はホームページ上で随時更新いたします. <http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

5. 各種お知らせ・資料

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では, 通年, 投稿を受け付けておりますが, 2021 年 7 月末発行予定の次号(第 36 号)に掲載希望の方は, 2020 年 11 月 30 日必着でご投稿をお願いいたします. なお, 投稿を受付済みで未掲載の記事は, 次号への掲載希望として取り扱っております.

1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は, 歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し, 記事の種別として, 論説, 資料, 講演要旨, 報告, 紹介を取り扱います. 頁数の上限は, 論説と資料は 20 頁, 講演要旨は 1 頁, 報告と紹介は 4 頁ですが, 超過が認められる場合もあります. 編集出版委員会では, 第 36 号を次の記事を中心に構成する方針です.

(1) 2020 年 9 月の第 37 回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事

(2) 昨年までの研究会で発表された内容, あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事

(3) 2020 年 9 月の第 37 回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨

これらのうち, (1), (2)の投稿をお待ちしています.

2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております.

(1) 編集出版委員会が編集作業を進めます.

(2) 論説および資料については, 査読制を取り入れていますので, 基準を満たさない記事は掲載できません. 少なくとも 1 名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし, 不備を指摘・訂正していただきます.

(3) 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準書式』を定めています. 最新の標準書式に従った Word ファイルが歴史地震研究会のウェブサイト(<http://www.histeq.jp/kaishi.html>)からダウンロードできますので, このファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします.

- (4) 電子ファイルでの投稿を奨励します。少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えますので、ご協力をお願いいたします。
- (5) 「投稿シート」(次頁に記載)に必要事項をご記入のうえ、このシートとともにご投稿ください。最新の様式の「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます。
- (6) 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF 版が歴史地震研究会のウェブサイトでオンラインジャーナルとしても一般に公開されます。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
- (7) 掲載料の頁単価は、モノクロページが 1,500 円程度、口絵のカラーページが 23,000 円程度です。ただし、投稿者が会員の場合は、1.に示した頁数までのモノクロページについては、無料です。
- (8) その他詳細は、編集規定をご覧ください。

3. 投稿先

- ・電子メールでご投稿の場合: histeq@histeq.jp

※ 添付ファイルが 5MB 以上の大きさになる場合には、CD-R または USB メモリに入れてご郵送ください。

※ 原稿を受領した場合は、必ずその旨の返信をしております。一週間以上経過しても受領の連絡がない場合には、何らかの原因でファイルを受け取ることができていない可能性がありますので、お手数ですが、上記アドレスまで再度お問い合わせください。

- ・郵送でご投稿の場合: 〒101-0064 千代田区神田猿楽町 1-5-18 千代田ビル 8F

地震予知総合研究振興会内歴史地震研究会編集出版委員会 宛

※ 郵送で投稿する場合は、確認のため、上記アドレスにも連絡して下さい。

- ・ご投稿の際には、忘れずに「投稿シート」をご提出ください。

『歴史地震』投稿シート

ver.202006

＜基本情報＞

記事の種類	論説・資料・報告・紹介 ※ 論説および資料の場合は、査読の対象となります。	
記事タイトル		
著 者		
投稿者(連絡責任者)	氏 名	
	所 属	
	郵便番号・住所	〒
	電話番号	
	電子メールアドレス	

＜質問・チェック事項＞

記事について

(1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい ・ いいえ
・「はい」の場合、発表年・開催場所・発表番号(O-12 など)をご記入ください	
※ 発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることがあります(論説、資料の場合)。	

体裁・形式について

(3) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準書式のWord ファイルを書き換えて作成したものですか？	はい ・ いいえ
・「いいえ」の場合、以下の標準書式に従っていることを十分に確認してください。標準書式からのずれが大きい原稿は、編集出版作業に手間がかかりすぎるため、受け付けられないことがあります。 ☐ A4 サイズ, 左右の余白各2cm, 上下の余白各2.5cm ☐ フォントは和文が明朝体, 英文がTimes ☐ 文字サイズは, 和文タイトル16 pt , 英文タイトル12pt, 所属・著者名10.5pt, 英文要旨10.5pt. ☐ 著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える. ☐ キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する. ☐ キーワードの下でセクションを切り替え, 本文は2 段組とする. 段の横幅は8cm, 段の間は7mm 程度, 1 行22 文字, 1 ページ45 行とする. ☐ 本文の文字サイズはすべて10.5pt .	
(4) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題, 英文の著者名・所属, 英文要旨(200 語程度), 英文キーワードを備えていますか？	はい ・ いいえ ・ 該当しない
(5) 句読点は「,」と「.」で統一されていますか？ ※ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい ・ いいえ

(6) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ ※ 歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。	ない ・ ある
(7) 西暦1582 年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？	はい ・ いいえ ・ 該当しない
・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？	はい ・ いいえ

図・写真について

(8) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい ・ いいえ
・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？	はい ・ いいえ
(9) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい ・ 検討中 ・ いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください	
※ カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。モノクロとカラーで図の内容・サイズを変更することはできません。なお、カラー頁料金が追加の掲載料が発生します。 ※ 歴史地震研究会ウェブサイトで公開されるオンラインジャーナル(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。	
(10) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷に必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい ・ いいえ ・ 図はない

歴史地震研究会会則

(2000 年 10 月 1 日制定, 2002 年 9 月 7 日改定, 2006 年 9 月 16 日改正,
2008 年 9 月 14 日改正, 2012 年 9 月 15 日改正, 2015 年 9 月 22 日改正
2017 年 9 月 16 日改正, 2018 年 9 月 24 日改正, 2020 年 1 月 17 日改正)

第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目 的)

第 2 条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事 業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) 歴史地震研究に関する業績の表彰
- (5) その他、必要な事業

(事務所)

第 4 条 本会は、事務所を東京都千代田区神田猿樂町 1-5-18 公益財団法人 地震予知総合研究振興会に置く。

(事業年度)

第 5 条 本会の事業年度は、毎年 8 月 1 日に始まり、翌年 7 月 31 日に終わる。

(会則改正)

第 6 条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の 3 分の 2 以上の賛成により、改めることができる。

(規 定)

第 7 条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第 2 章 会 員

(会 員)

第 8 条 本会は次に定める会員からなる。

(1) 会 員 本会の目的に賛同する個人

第 9 条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第 10 条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、評決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(会費滞納者の処遇)

第 11 条 会費の納入を遅滞している会員は、前条に定める会員の特典が停止される。

2 2 年間会費を納入しない場合、当該会員は、本会の会員から除名される。

(入 会)

第 12 条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退 会)

第 13 条 退会しようとする会員は、会長に所定の退会届を提出し、幹事会の承認を得なければならない。

2 退会しようとする会員に未納の会費がある場合、当該会員は、退会前にそれを全納しなければならない。

(休会および復会)

第 14 条 会員は、海外への留学や赴任、病気療養、出産、育児などにより、本会の活動に参加することが困難となった場合、休会することができる。

2 休会しようとする会員は、休会の理由および期間を付して、会長に所定の休会願を提出し、幹事会の承認を得なければならない。ただし、健康上の理由などで手続きが困難な場合、会長は、幹事会の承認を得て、当該会員を休会とすることができる。

3 前項の規定により休会した会員は、休会中、会費が免除される。ただし、第 10 条に定める会員の特典は停止される。

4 第 2 項の規定により休会した会員が復会しようとする場合、当該会員は、会長に所定の復会願を提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(入退会および休復会の時期)

第 15 条 会員の入退会および休復会は、事業年度を単位とする。

(除名および再入会)

第 16 条 会員が次のいずれかに該当する場合、会長は、幹事会の承認を得て、当該会員を本会の会員から除名することができる。

- (1) 本会の会員として著しく不適切な行為があったと判断された場合
- (2) 長期間にわたって連絡が取れない場合
- (3) 第 11 条第 2 項に該当する場合

2 除名された会員が再入会を希望する場合は、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。ただし、当該者に除名以前の未納の会費がある場合は、これを全納しない限り、再入会を認めない。

第 3 章 役 員

(役 員)

第 17 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 1 名
- (3) 幹事 5 名
- (4) 監査役 2 名

第 18 条 会長は会員の中から総会で選出する。

2 会長候補者は 3 名以上の会員の推薦をもって立候補し、前年度の事業年度末までに幹事会に届け出るものとする。会長の任期は総会直後の 11 月 1 日から翌年 10 月末日までとする。

3 副会長および幹事は、総会で選出された会長が会員の中から委嘱する。

4 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出るものとする。監査役の任期は総会直後の 11 月 1 日から翌年 10 月末日までとする。

第 19 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。

3 本会に総務委員会、財政委員会、行事委員会、広報委員会、編集出版委員会をおき、各委員会の長は幹事がつとめる。

4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。

5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第 4 章 総会および幹事会

(総会の招集)

第 20 条 総会は年 1 回、会長が招集する。総会は会員の 10 分の 1 以上の出席によって成立する。会議の議事についてあらかじめ書面または電磁的方法をもって意志を表示した者、または委任状(電磁的方法含む)をもって表決を委任した者は出席者数に加算できる。

(総会の決議事項)

第 21 条 総会では次のことを行い、会則第 6 条に定めるほかは出席者の過半数をもって決す。可否同数のときは議長の決するところによる。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第 22 条 幹事会は会長、副会長および幹事で構成する。幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は構成員の 2/3 以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第 5 章 会 計

(資 産)

第 23 条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第 24 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第 25 条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹事会および総会において承認を受けなければならない。

(2015 年 9 月 22 日改正より前の付則 略)

付則 (2015 年 9 月 22 日改正時)

第 1 条 第 10 条による会費は, 次の通りとする.

会員 4000 円

第 2 条 本会則は, 2015 年 9 月 23 日から施行する. ただし, 付則第 1 条は 2016 年度の会費から適用する.

付則 (2017 年 9 月 16 日改正時)

第 1 条 本会則は, 2017 年 9 月 17 日から施行する. ただし, 会則第 5 条に定める事業年度については, 2017 年度に限り 9 月 1 日に始まり, 翌年 7 月 31 日に終わるものとする.

組 織

総務委員会

文書の受付, 配布, 会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成, 決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会, 除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項